

授業概要

科目名	高次脳機能障害Ⅰ					授業の種類	講義	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1	後期
【授業の目的・ねらい】 失認・失行・視空間障害等について学び、高次脳機能障害がどのように起こるのか理解する。												
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害・音声障害・発達障害のリハビリテーションに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 高次大脳機能障害に関する知識を習得し、検査、評価法を学び、リハビリテーションについて理解を深める。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次大脳機能障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための基礎を習得する。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	高次脳機能障害基本概念、脳のはたらき、脳機能的領域、側性化について理解できる										教科書、PC(講義用)	
2	高次脳機能障害の神経心理学的な考え方について理解できる										教科書、PC(講義用)	
3	視知覚障害、視覚認知障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
4	半側空間無視、地誌的見当識障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
5	バリエーション症候群、構成障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
6	触覚性失認・聴覚性失認について理解できる										教科書、PC(講義用)	
7	病態失認について理解できる										教科書、PC(講義用)	
8	失行について理解できる										教科書、PC(講義用)	
9	記憶障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
10	前頭葉機能障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
11	脳梁離断症状について理解できる										教科書、PC(講義用)	
12	認知症で生じる高次脳機能障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
13	脳外傷・認知コミュニケーション障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
14	認知コミュニケーション障害について理解できる										教科書、PC(講義用)	
15	全講義を通して学んだ用語の復習をし、整理ができる										教科書、PC(講義用)	
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第4版』医歯薬出版												
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習をおこなってください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												